

櫻井 鼓 [編]

SNSと性被害

——理解と効果的な支援のために

誠信書房・A5判並製

2024年8月刊行

2,420円（税込）

評者＝中野葉子（原宿カウンセリングセンター）



この原稿の執筆を進めるなか、NHKスペシャル「ジャニー喜多川が築いた“アイドル帝国”の実像」が放送された。本書で扱われるSNSを介した性被害とは異なるものの、ジャニー喜多川氏が行ったグルーミング（若年者を性的に懐柔する行為）には、被害が拡大する手口やそれを許す環境に多くの共通点が存在する。

スマートフォンの普及に伴い、若年層をターゲットにしたSNSを介した性被害は急増している。情報へのアクセスが容易になる一方、リテラシーの不足が被害を助長している。そして、被害者はしばしば「なぜ気づかなかったのか」「なぜ拒否しなかったのか」といった自己責任を問う非難に晒される。しかし、性に関する問題はタブー視されがちなため、被害が表面化するまでに時間がかかることも少なくない。本書は、被害者支援の立場から自己責任論の罠を打破し、性被害の実態と対策を社会全体に伝え、啓発することを目的としている。社会の責任を問い、その在り方を考えるための多面的な視点が示されている点が、本書の重要な特徴だ。

第1部では、編者の櫻井氏を中心に、SNSを介した性被害の実態がわかりやすく解説されている。若者たちが経験する性的グルーミングやセクストーション（性的な脅しやゆすり）のメカニズム、加害者の心理、報道のあり方や法的枠組みなどについて論じられている。また、SNSが若年層にとって身近な環境でありながら、どのように性被害の温床となり得るかを分析し、なぜ彼らが加害者の言葉を信じてしまうのか、その背後にある認知的な仕組みや信念（belief）の悪用についても掘り下げられている。

続く第2部では、学校教育、精神科医療、SNS相談を通じた支援の実例や課題が示されている。執筆者たちの豊富な経験が記されているため、特に臨床家にとって有益な内容だ。評者が印象深く感じたのは、SNS相談の架空事例である。短いやり取りのなかで「頼りな

なる友達」として信頼関係を築く様子は、SNSという特有の環境を活かした支援の重要な一例であり、性暴力被害者への対応としても示唆に富んでいる。

また、各分野から12名の執筆者が参加し、さまざまな角度から問題を描いていることも本書の特徴である。彼らの取り組みは、支援を必要とする多くの若者にとって大きな支えとなっており、その活動には深い敬意を抱く。

性被害、とりわけ性的グルーミングへの理解と啓発は、いまだ十分とは言えない。SNSの利用やリテラシー向上、そして「No」と言う力を身につけることの重要性が強調される一方で、それを支える啓発活動の強化が不可欠である。たとえば、ジャニー喜多川氏の事件でも、周囲の大人たちが見て見ぬふりをしたことが被害拡大の一因となったが、もはや私たちは、SNSを介した性被害の問題を「わからない」「見たくない」と目を背けている場合ではない。本書は、子どもに関わる支援者や教育者、子を持つ親だけでなく、広くSNSを利用する人やこの問題に関心を持つ人たちにぜひ手に取ってほしい一冊である。性被害を根絶するためには、社会全体の関与が不可欠だ。本書は、その新たな一歩を示す道標となるに違いない。